

4 調査研究業務の概要

平成 24 年度実施課題一覧

①保健関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
地域保健情報の解析、評価及び活用に関する研究	健康・生活習慣に関する情報を用いた健康増進に係る基礎的研究	特定健診、保健指導、健康栄養調査を代表とする健康に関するデータを収集し、それぞれのデータから福岡県の健康に関する現状の分析や要因の推定を行う。研究を通して得た指標値や推定結果については、健康増進課や保健所、市町村へ情報提供し、施策立案、その評価、各種計画策定のための基礎資料として還元する。	24-26年度	P12
感染症の発生及び食品の安全性確保に関する研究	福岡県におけるカンピロバクター食中毒を防止するための研究	市販鶏肉を検査対象として、増菌培養法とその培養時間がイムノクロマト及び菌分離において検出に及ぼす影響について検討した。	23-25年度	P16
	サルモネラ等の薬剤耐性の拡大を予防するための基礎的研究	日本でも、 <i>bla</i> _{CMY-2} 保有インファンティスを中心とする広域スペクトラムセフェム系薬剤耐性サルモネラ菌株が 2007 年から顕著に増加し、且つ何らかの媒体をとおしてヒトにも感染していることが明らかになった。この媒体としては鶏肉が疑われるため、鶏肉のサルモネラ汚染に対して何らかの対策を施す必要が明らかになった。	22-24年度	P16
	福岡県におけるロタウイルス流行実態解明に関する調査研究	福岡県内で流行しているロタウイルスについて遺伝子型別を行い、福岡県内における流行実態の把握を行った。ワクチン導入に伴う流行株への影響を監視する。	24-26年度	P18
	呼吸器感染症の網羅的マルチプレックス PCR法の実践的応用と改良に関する研究	呼吸器ウイルス検出法の改良を行い、検出感度の向上を目指す。さらに確立した方法を用いて、福岡県における呼吸器系ウイルスの流行状況を把握する。	24-26年度	P18
ダイオキシン類、有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	食品中PCB代謝物の分析法開発に関する研究	食品中のポリ塩化ビフェニル (PCB) 代謝物の化学分析法を確立するとともに、食品汚染実態調査を行い、食の安全性確保に資する。	22-24年度	P20
	有害化学物質による食品汚染実態の把握に関する研究	食品の安全性を把握するため、残留性有機化合物である臭素系難燃剤や農薬等について、新規化合物の分析法検討、食品汚染実態調査及び摂取量調査等を行う。	23-25年度	P20
	油症等のダイオキシン類による人体および次世代影響の解明に関する研究	福岡県を中心に発生した油症をはじめとするダイオキシン類のヒトへの健康被害及び次世代への影響を解明し、行政対応のための科学的データ蓄積に資する。	22-24年度	P20

②環境関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による環境汚染の防止とその対策に関する研究	水環境中における化学物質のリスク評価に関する研究 -N,N-ジメチルドデシルアミン、N,N-ジメチルオクタデシルアミン等-	N,N-ジメチルドデシルアミン (DMDA)、N,N-ジメチルオクタデシルアミン (DMOA) は人の健康及び生態系への影響が懸念されている物質であるが、いまだ分析法が開発されておらず、暴露情報が不足している。そこで、これら2物質同時分析法を開発し、環境調査およびリスク評価を行うことを目的とする。	23-25年度	P14
	化学物質の分析法開発並びにそのデータベース化に関する研究	化学物質に関しては国や地方自治体が連携して分析法の開発や実態調査に取り組んでいる状況を踏まえ、新たな化学物質を含めた分析方法の開発を行い、更に多成分の一斉分析を可能にするデータベースを構築する。	22-24年度	P14
大気環境の保全に関する研究	微小粒子（金属類及び有機化合物等）による越境大気汚染の影響評価	微小粒子中に含まれる金属は越境大気汚染の指標となり得る。有機化合物には健康影響を示す物質もある。そこで、本研究では北部九州で微小粒子中の金属類及び有機化合物の実態を把握し、越境大気汚染の影響評価を行う	22-24年度	P22
	高活性炭素繊維 (ACF)を用いた多機能型空気浄化技術の開発	道路沿道の他、室内、自動車内、地下駐車場のよう、殆ど風のない場所で、空気自然対流やガス拡散によりNOx、VOCをACFに捕捉、浄化できる空気浄化システムの設計、実用化を目指す。	23-25年度	P22
	大気汚染物質の山地における植生影響に関する研究	ブナ林植生が存在する英彦山及び脊振山において、オゾン等の大気汚染物質調査及びブナの衰退度調査を実施し、大気汚染と植物衰退との関連について検討する。	24-26年度	P22
水環境の保全に関する研究	アオコ抑制技術のマイクロシスチン汚染への影響調査	富栄養化した湖沼では様々なアオコ抑制対策が行われている。本研究ではアオコ対策がマイクロシスチン汚染へ及ぼす影響を検討するとともに、汚染拡大を引き起こさないアオコ抑制技術を検討する。	24-26年度	P25
	溶存態ケイ素を考慮した沿岸生態系管理に関する基礎的研究	有明海の水環境異変の問題解決を目指して、窒素・リンに加え溶存態ケイ素 (DSi) を加えた沿岸生態系予測モデルを完成させることを念頭に、溶存態ケイ素の流出負荷量モデルを作成し沿岸生態系への影響について調査した。	22-24年度	P25
廃棄物の適正処理と有効利用に関する研究	最終処分場からの有機汚濁質による硫化水素生成と適正処理に関する研究	最終処分場における高汚濁負荷を有する浸出水等を対象として、有機物の硫化水素生成能、分解特性及び水処理特性を明らかにし、硫化水素生成予測や有機汚濁質の処理などの対策や最終処分場の適正管理に資する。	22-24年度	P27
	都市ゴミ焼却灰の有効利用	ストーカ炉の主灰を充填したカラム管に酸性水を通水する事で、焼却灰中に1.1%含有されていた塩素イオンを0.2%以下にまで減少させることができた。また、焼却灰に含まれる鉛の溶出も認められなかった。	24-26年度	P27

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
自然環境と生物多様性の保全に関する研究	湿地の生物多様性評価に関する研究 ― 福岡県内湿地の特性把握と重要湿地の抽出 ―	福岡県内の湿地を対象として、生物種の分布実態を詳細に調査し、県内湿地の生物多様性の現状を把握するとともに、得られた調査データ及び既存情報等を統合して、重要地域及び生物多様性ホットスポット等を抽出する。	23-25年度	P28
	希少水生生物の生息地再生に関する研究	近年、積極的な保全対策として、自然再生・生息地再生が試みはじめられているが、その手法や効果については検討すべき課題が多い。そこで、希少水生生物の効果的な生息地再生手法を確立する。	23-25年度	P29
計	19 課題			